

1. 授業の概要(ねらい)

あなたは、世界のなかで最も宗教的な国はどこだと思いますか？
日本では、中東にあるイスラームの国々を挙げる人が多いかもしれません。
しかし統計調査などによると、そうした国々と同じくらい宗教的なのがアメリカです。
この事実は、日本人が持っているアメリカのイメージとは大きく異なるでしょう。
アメリカは、ファッションや音楽、政治制度、経済システムなど、いずれも最先端にいます。
したがって、近代化の先頭を走ってきたのがアメリカだ、という印象が持たれてきました。
ところが、そうしたアメリカ像は、とくに21世紀に入ってから変更を迫られるようになっていきます。
それではアメリカは、どういった意味で宗教的なのでしょうか。
あるいは、どうして現在でも宗教的なのでしょうか。
この講義は宗教文化論Ⅰに引き続き、「宗教」についてアメリカ社会とその歴史を例にしながら学びます。

2. 授業の到達目標

現在でも「宗教」が大きな影響力をもっていることを認識し、その理由について理解する。

3. 成績評価の方法および基準

- ・原則として8割以上の出席を前提とする。
- ・適宜おこなう感想文の提出を必須とする。
- ・試験において講義内容とテキストにかんする理解度を問う。
- ・以上に授業態度をくわえ、総合的に判断する。

4. 教科書・参考文献

参考文献

・藤本龍児 『アメリカの公共宗教：多元社会における精神性』2009年 NTT出版

*他の参考文献は、講義中に紹介する。

5. 準備学修の内容

この講義には、特別な前提知識はありません。
しかし内容を理解するには、自分の経験と合わせて考えることが重要になります。
講義中はもちろん、日常生活のなかでも、実体験と合わせて考えてみるようにしてください。

6. その他履修上の注意事項

この講義だけで一つのまとまりをもっていますが、宗教文化論Ⅰを履修していることが望ましい。
講義は以下のような内容を計画しています。ただし、受講者の理解や関心に応じて柔軟に改変していきます。

7. 授業内容

- 【第1回】 はじめに
- 【第2回】 南北戦争後のエヴァンジェリカルズ
- 【第3回】 ソーシャル・ゴスペル
- 【第4回】 ファンダメンタリストの登場
- 【第5回】 第一次世界大戦と宗教
- 【第6回】 ネオ・オーソドキシ
- 【第7回】 第二次世界大戦と教会
- 【第8回】 キング牧師の活躍
- 【第9回】 ビリー・グラハムの影響力
- 【第10回】 ヴェトナム戦争への姿勢
- 【第11回】 公立学校における折り
- 【第12回】 新しいエヴァンジェリカルズ
- 【第13回】 宗教右派
- 【第14回】 宗教左派とティーパーティー運動
- 【第15回】 おわりに